

◇保育科第三部 主要科目の特長

公表日 平成22年12月20日

最新更新日 平成22年12月20日

科目	特長
保育原理 I A	<p>今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、実態を含め真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、多様な保育ニーズや社会変化を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。</p>
保育課程総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程・保育計画の全体構造・具体的な編成等を知る。</li> <li>・ 保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する環境構成、保育の内容について考える。</li> <li>・ 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。</li> </ul>
発達心理学	<p>人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達のプロセスを発達段階にわけ、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。</p>
音楽教育A	<p>こどもたちと一緒に歌ったり楽器を弾いたりして、音楽の楽しさを味わうことは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な知識の獲得や音楽的技能の養成を目標とします。ML(ミュージック・ラボラトリー)を利用したこどもの歌の弾き歌い練習をはじめ、アンサンブルの学習、ソルフェージュの指導、鑑賞などを通して音楽的資質を高め、さらに、楽譜の演奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを期待します。また、鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器の奏法にも習熟し、こどもたちと一緒に音楽の楽しさを共有できる保育者を目指してほしいものです。</p>
造形A 担当者名:岩見 健二	<p>子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形するkとであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験をもっていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感性を磨いてほしい。</p>

◇保育科第三部 主要科目の特長

科目	特長
造形A 担当者名:柳楽 節子	楽しい造形遊びを園児たちに伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知ることが必要である。この演習授業では、造形の基礎となる描写力、色彩の知識、構成力を楽しみながら養えるよう授業を進めていく。眼と手と頭、そして体全体を使って、受講生が造形の面白さを発見できる力を養うことを目標としている。
造形A 担当者名:満田 知美	保育現場での造形遊び(お絵描き遊び)で生かせる基礎(描写、色彩、色彩構成)や道具の扱い方を学びます。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現します。材料や道具に十分に馴染むことで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ、それを絵や工作に表したくなってしまいます。世界でたった一つのもので、自分の力だけでつくる。言葉でいいあわせない気持ちを、存分に出すことができます。まずは、小さな思いをコンセプトに、小さな作品から制作します。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案します。
幼児体育 担当者名:宮川 和三	幼児の発達課題と運動
幼児体育 担当者名:井上 靖	発達刺激としての運動遊びの実際とその分析を通して幼児体育の課題について考える。
社会福祉	「現代社会に生きる私たちにとって幸せとは何か」を追究します。保育士は保育、子育て支援の専門職であることを認識し、社会福祉での学びが実践活動に活かされるようにすることを目指します。
教育原理	人間にとってなぜ教育が必要なのか、また教育の意義や目的は何かということについて、漠然とした理解ではなく理論的に理解することができることを目的とする。教育の意義や目的について、現代のさまざまな領域の知見から洞察を深めることで、人間にとっての教育の必要性や役割が理解できるようにする。また、これまでの教育の歴史を知ることで、現在の教育のあり方やこれからの教育の課題について考察することができるように努める。

### ◇保育科第三部 主要科目の特長

科目	特長
教師論	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。</li><li>・ 保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。</li><li>・ 学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用する。</li><li>・ 模擬保育を行い、自らの望ましい保育者像を構想する。</li></ul>